

# I 事業報告書

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

財団法人鈴鹿国際交流協会（以下「協会」という。）では、国際交流事業をはじめ、鈴鹿市民のための国際親善事業、また、多文化共生社会に関する理解を深めるための地域交流事業を中心に企画し、運営実施してきました。

本市における外国人登録者数は、リーマンショックに端を発します 2008 年以降の世界的経済不況の影響を受けて減少傾向にあり、本年度末では 8,440 人と前年度から 474 人の減少となっています。しかしながら全人口に占める外国人の比率は、依然 4 パーセントを超え、また定住化も少しずつですが進行しています。

協会では、市内の企業、団体及び市民と連携して、日常生活の中で日本人市民と外国人市民が共に仲良く暮らせる「住みよいまち」の実現を目指し取り組み、平成 22 年度では、次にかかげる事業を実施してきました。

## 1 事業の概要

### (1) 交流事業

#### 青少年ベルフォンテン市派遣事業

平成 22 年 8 月 4 日(水)～8 月 10 日 (火) に実施しました。

この事業は、公募した鈴鹿市在住の中学生及び高校生から、それぞれ 6 人ずつ計 12 人を選抜し、本市友好都市のオハイオ州ベルフォンテン市へ派遣する事業です。子供達は、ベルフォンテン市を中心としたホストファミリー宅に滞在し、アメリカ文化を学び、ローガン郡教育委員会の関係者の皆さんやベルフォンテン市長を表敬訪問するなどして交流を深めてきました。また 5 月以降、準備・練習を重ねてきたパフォーマンスをベルフォンテンの子供達や、ホストファミリーに披露し、喜ばれました。

### (2) 研修啓発事業

#### ① 国際理解セミナー

「日本の知恵を活かした女性のエンパワーメント in ネパール」

- ・開催日時 平成 22 年 11 月 7 日 (日) AM10:00～11:30
- ・場 所 男女共同参画センター ホール
- ・講 師 アルチャナ シュレスタ ジョシ
- ・参加者 参加者 30 名
- ・結 果

ネパールは、国民の所得水準が低く識字率も低い国です。とりわけ女性の就業率が悪く、働く場が少ないことから女性のための職業訓練の場の必要性を痛感し、日本でミシンを調達し、縫製技術を教えたり、また理容美容技術の習得訓練をさせたりしています。

アルチャナ氏は、鈴鹿国際大学を卒業後、就労の機会拡充のため、このような職業訓練センターを設立し、その後、日本とネパールを往復して、さらなるネパール女性の地位向上のために活動しようとしているという

話をされていきました。

## ② 国際理解料理講座

### \* 「おうちで簡単 韓国の家庭料理」パートⅠ

- ・ 講師 金 淑子先生と申 絹愛先生とボランティア会員 5 名
- ・ 開催日時 平成 22 年 9 月 11 日 (土) AM10:00~PM2:00
- ・ 場 所 鈴鹿市文化会館
- ・ 参加者 30 名 (うち在住外国人 2 人)

### \* 「おうちで簡単 韓国の家庭料理」パートⅡ

- ・ 講師 金 淑子先生と申 絹愛先生とボランティア会員 5 名
- ・ 開催日時 平成 22 年 10 月 31 日 (日) AM10:00~PM2:00
- ・ 場 所 鈴鹿市文化会館
- ・ 参加者 29 名 (うち在住外国人 2 人)

### \* あったかホカホカ ロシア料理講座

- ・ 講師 橋本エカテリナ先生とボランティア会員 2 名
- ・ 開催日時 平成 22 年 12 月 11 日 (土) AM10:00~PM2:00
- ・ 場 所 鈴鹿市文化会館
- ・ 参加者 40 名

## ③ 国際理解研修

国際交流活動推進事業として、牧田地区地域づくり協議会の多文化共生委員会が主催した「そうめん流しと日本と外国の食べ物交流会」(活動支援事業参照)事業の第 3 部で、日本人住民と外国人住民との間で、互いの生活習慣の違いなどを出しあいながら、コミュニケーションの持ち方について、話し合いがなされました。

## (3) 情報収集・提供事業

### ① ホームページ

協会のホームページの内容を定期的に更新しました。

### ② SIFA ニュース

年間 4 回 (平成 22 年 4・7・10 月, 23 年 1 月)・発行部数 600 部

協会役員 (理事・監事・評議員), 賛助会員及びボランティア会員への協会機関紙として発行しました。

ニュース内容は、協会の事業計画・予算や活動報告などの他、協会の近況や賛助会員及びボランティア会員の活動報告などを主体に掲載しました。

### ③ ホームビジット, ホームステイの受入れ

#### \* 「21 世紀東アジア青少年大交流計画」

- ・ ベトナム高校生一行 20 名 平成 22 年 10 月 22 日 (金) ~24 日 (日)

JICE ((財) 日本国際協力センター) から受入れ依頼があったもので、ボランティア会員にホームステイのお世話をいただき、高校生は、日本文化と日本の生活様式を体験することができました。

#### \* 鈴鹿高等専門学校在籍留学生のホームステイ斡旋

- ・ マレーシア国籍留学生 2 名 平成 23 年 1 月 8 日 (土) ~9 日 (日)

ボランティア会員にホームステイのお世話をいただき、家族との交流体験や、伊勢神宮等で日本文化を見学することができました。

④ Suzuka Voice FM SIFA タイアップ事業

日本人市民と在住外国人市民が共に生きる社会を実現するため、地元の FM 放送局スズカボイス FM と協会は、協働で毎週木曜日の 12 時から地域に根ざした情報発信を行なっています。在住外国人市民の近況や鈴鹿国際交流協会の活動状況などについて、タイムリーで的確な情報を提供しました。

⑤ イアッツフォーラム「開校式・修了式典」出席

- ・平成 22 年 9 月 25 日（土） 鈴鹿サーキット 開講式
- ・平成 22 年 11 月 13 日（土） 鈴鹿サーキット 修了式 研修生の研究発表

研修生はアセアン各国を代表する企業社員及び国や機関の代表的職員の若手の方々です。

修了式では、グループごとの研究発表があり、東南アジア諸国の実状など報告がありました。

(4) 活動支援事業

① 「国際交流フェスタ in 鈴国大」

主 催 鈴鹿国際大学

日 時 平成 22 年 6 月 12 日（土）PM1:00～5:00

場 所 鈴鹿国際大学（国際文化ホール・体育館）

事業内容 第 1 部 国際理解・国際交流活動発表会（体育館）

国際理解及び国際交流活動に取り組む県内の生徒または地域国際交流団体等が活動発表し、該当者に鈴鹿国際交流協会賞を各団体に授与しました。

第 2 部 国際交流の集い（体育館）

留学生による自国の民俗芸能の披露、留学生との多文化交流・国際料理の試食会などを通じて、ボランティア及び地域の方々等が楽しく交流しました。

② 「神戸高校と韓国ピョンジヨム高校との学生の交流活動」

主 催 鈴鹿ライオンズクラブ

日 時 平成 22 年 8 月 9 日（月）～12 日（木）

場 所 三重県立神戸高校

事業内容 神戸高校と韓国ピョンジヨム高校の生徒間交流を通じて意識の違い、学業の違い、愛国心や国家観の違いを知ることにより、「近くて遠いといわれる韓国」を身近に感じ、知識や見聞を広めることができました。また、今後継続的な事業として取り組むことを確認しました。

③ 「そうめん流しと日本と外国の食べもの交換会」

主 催 牧田地区地域づくり協議会 多文化共生委員会

日 時 平成 22 年 10 月 3 日（日）AM10:00～PM2:00

場 所 鈴鹿市立 牧田公民館

事業内容 第 1 部 日本人と外国人が一緒になってそうめん流しを体験して味わ

いました。

第2部 日本の食べ物として炊き込みご飯、外国の食べ物として手作りケーキやプリンの交換試食会などで歓談しました。

第3部 日本人と外国人の生活習慣の違いなどを出しあいながら、日本人住民と外国人住民との間でコミュニケーションの持ち方について、話し合いがなされました。

④「国際人への第一歩」～世界を知り日本を知る～

主催 鈴鹿青年会議所

日時 平成22年11月12日(金) PM7:00～9:00

場所 鈴鹿文化会館 けやきホール

事業内容 講演：ゾマホン イドゥス ルフィン

日本の文化と伝統を守ることは、日本人の礼儀正しさ、やさしさ、日本人のアイデンティティを失わないことにも繋がります。このことは日本の安全安心社会を築くうえで大切なことです。外国人からみて日本人がこれ以上西洋化されると、安全面にも心配が出てきます。そこで、皆さんの力で日本をいつまでも住みやすい国にして欲しいという話がありました。

⑤「ソーラーパネルを製作しながら国際貢献について考えてみよう」

主催 タランガフレンドシップ・グループ

日時 平成22年11月13日(土)

場所 鈴鹿国際大学

事業内容 当日は国際交流活動推進事業の一つとして、ソーラーパネルを製作したあと、国際NGOの活動の紹介や国際貢献のあり方等について参加者全員で意見を出しあい、話し合われました。

製作されたパネル2枚の内、1枚は、参加した留学生が国へ持ち帰り生活向上のために使用し、あと1枚は、タランガの活動地で、井戸水を汲み上げるモーター用電源として使用されるとのことです。

(5) 共生推進事業

① 日本語会話講座開催事業

市内在住外国人のために日本語会話講座を授業形式で開催

前期受講生数 延べ8名・後期受講生数 延べ3名 計11名

② 地域共生推進事業

\* 日本語指導者研修事業

本年度は、日本語ボランティア養成講座を鈴鹿国際大学の支援を得て、次のとおり開催しました。

・ 募集人数 30名 / 応募者 28名 修了者 15名

・ 講師 鈴鹿国際大学舟橋先生、赤塚先生、栈敷先生

・ 参加費 一般6,000円、賛助会員3,000円

・ 期間 平成22年5月22日～6月26日(毎週土曜日) AM1:00～PM2:30

(全9回開講。ただし5月22日、6月5日、6月19日は14:40～16:10にも

開催)

・ 講座内容

- 1 回目 鈴鹿市、亀山市の外国人の受入に関わる状況について、ボランティアの素質、日本語教室に求められるものを知ろう (SIFA, 桜島日本語教室)
- 2 回目 日本語学習者の話す日本語って (舟橋先生)
- 3 回目 日本語は難しい? (舟橋先生)
- 4 回目 日本語の教材と教え方 (栈敷先生)
- 5 日目 外国人の気分で、知らない言語で勉強してみよう (鈴鹿国際大学留学生)
- 6 回目 教室活動のプランを作ろう (赤塚先生)
- 7 回目 日本語指導実習・準備 (赤塚先生, 栈敷先生)
- 8 日目 日本語指導実習・グループ発表 (赤塚先生, 栈敷先生)
- 9 回目 市民ボランティアで日本語を教えるとは

各日本語教室の紹介 (鈴鹿日本語会 AIUEO, 亀山市, 牧田いろは教室)

※ 平成 22 年度は、鈴鹿、亀山両市が国際大学と協働して開催しました。講座終了後、各地「日本語教室」のボランティア活動状況に研修参加を呼びかけたところ 9 名の方が参加されました。

\* 外国語版広報紙発行事業 (マンスリー)

ルビ付き日本語、ポルトガル語及びスペイン語版の広報紙を毎月発行する。

- ・ 発行部数 毎月 約 3,600 部 (ポルトガル語 2,100 部・スペイン語 1,000 部・日本語 500 部)

- ・ 内 容 市広報を在住外国人の方が必要とする記事の選択・翻訳・印刷して市及び市内の外国人が多く集まる店舗へ配布しました。

今年度は、東日本大震災後、地震に関する問合せが多くあり、臨時増刊号として「防災と正確な情報へのアクセスについて」を毎号の言語の他中国語、英語を加え発行しました。

\* 共生社会推進イベント

- ・ 第 9 回国際交流イベント: わいわい春まつり “アミーゴ♡Tomodachi” 開催

主 催 鈴鹿国際交流フェスタ “わいわい春まつり” 実行委員会

日 時 平成 22 年 4 月 25 日 (日) AM10:00~PM4:00

場 所 鈴鹿ハンター・弁天山公園

参加者 2,000 名

平成 22 年度から、会場を鈴鹿市文化会館から鈴鹿ハンターに移し開催しました。結果、買い物に来られた地域住民を巻き込むことができ、参加者の大幅増につなげることができました。

この成果を未来につなげるよう、第 10 回わいわい春まつり実施に向けて、次のとおり実行委員会を開催しました。

実行委員会開催状況

第 1 回 平成 22 年 10 月 9 日 (土) PM1:30~3:30 神戸コミュニティセンター

第 2 回 平成 22 年 11 月 13 日 (土) PM1:30~3:30 神戸コミュニティセンター

第 3 回 平成 22 年 12 月 4 日 (土) PM1:30~3:30 神戸コミュニティセンター

第 4 回 平成 23 年 1 月 15 日 (土) PM1:30~3:30 神戸コミュニティセンター

第 5 回 平成 23 年 2 月 12 日 (土) PM1:30~3:30 牧田コミュニティセンター

第6回 平成23年 3月12日(土) PM1:30~3:30 牧田コミュニティセンター  
・「ペットボトル筏で川くだり」

日 時 平成22年8月22日(日) AM10:00~PM3:00

場 所 鈴鹿川 定五郎橋西の河川敷

参 加 者 外国人10名

「夏の鈴鹿川体験事業」の中でペットボトル筏での川下りを呼び掛け、当日は、日本人、外国人が共同製作しました。童心に帰り夏の鈴鹿川を下り自然を満喫しました。

＊ 学習支援ボランティア養成講座

外国籍の子供達の学習環境を整えるが求められており、市内の学習支援教室において、学習をサポートするボランティアを養成する講座を実施しました。

日 時 平成23年2月2日(水), 2月9日(水), 2月16日(水), 2月23日(水) PM2:30~PM4:00

場 所 鈴鹿市男女共同参画センター, 桜島小学校

参 加 者 9名

＊ その他共生推進事業

・「愛知県一ノ宮市立中央看護専門学校」へ講師として職員が参加

主 催 愛知県一ノ宮市立中央看護専門学校

開催日 平成22年7月26日(月)

内 容 急増する在住外国人労働者の問題, 異文化摩擦や教育問題について

・「イアッツフォーラム」派遣研修生の文化交流会へ参加

主 催 イアッツフォーラム

開催日 平成22年10月24日(日) PM1:00~3:00 鈴鹿メディアパーク

内 容 世界の誕生日の祝い方について寸劇発表しました。また, 会場の日本人向けに各国特産品の展示即売が行なわれました。

・「留学生等への支援」

鈴鹿国際大学等への留学生の方に対して, 市民, 賛助会員, ボランティア会員等から生活物資の寄付を頂き, 平成23年3月22日(火)に大学へ届けました。

＊ 在住外国人向けの鈴鹿生活便利マップ作成

ふるさと雇用再生特別基金事業を活用し, 多文化共生推進員(臨時職員 2名)を雇用し, ホームページ上に鈴鹿生活便利マップを作成しました。

内 容 避難所マップ(ひらがな, カタカナ, 漢字版), マンスリーすずか配置店, 日本語教室及び学習支援室をGoogle Mapsで作成しました。また, 東日本大震災後, 協会ホームページ上に仮リンクページを作り, 避難所情報の提供に努めました。

(6) 他団体への参加

① 夏の鈴鹿川体験事業

主 催 やすらぎ君ネット「第10回 夏の鈴鹿川体験実行委員会」

日 時 平成22年8月22日(日) AM 10:00~3:00

場 所 鈴鹿川河川緑地(定五郎橋西)

内 容 日本人と在住外国人市民が参加するイベントの趣旨に賛同し参加しました。当日のイベントでは、野草のてんぷら・鈴鹿茶試飲コーナー、鈴鹿川流域の生物水槽展示とビーサン飛ばし、バルーン体験等が催されました。協会は、外国語のチラシ・ポスターを作成して配布しました。

②「多文化共生を考える」集い

主 催 鈴とも

日 時 平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月 第 3 火曜日開催 年 12 回

場 所 鈴鹿市社会福祉協議会

内 容 社会福祉協議会が主催する多文化共生を考える組織です。福祉施設・介護施設では外国人労働者の雇用が進んでいます。しかし、外国人ホームヘルパーの日本語能力やスキルアップが必要とされています。そのため、福祉現場での雇用促進や職場の悩みについて話し合い、問題解決にむけた事業を企画しています。

③「多文化共生に関する意識調査検討委員会」

主 催 社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会

日 時 平成 22 年 9 月 27 日(月)～平成 23 年 3 月 31 日(木) PM7:00～  
不定期に 3 回開催

場 所 鈴鹿市社会福祉協議会 2 階会議室

内 容 第 2 次地域福祉活動計画において策定された実施計画をより計画的に推進するため、外国人等に対する意識調査が計画されました。

この委員会は、多文化共生にかかる意識調査を実施するにあたり、より効果的成果を求めるため設置されたものです。

④「多文化共生推進指針検討委員会」

主 催 鈴鹿市 生活安全部 市民対話課 外国人交流室

日 時 平成 22 年 9 月 29 日(水)、平成 22 年 10 月 29 日(金)、  
平成 22 年 11 月 16 日(火)、平成 23 年 3 月 11 日(金) PM7:00～

場 所 鈴鹿市役所 会議室

内 容 日本人も外国人もお互いの文化的違いを認め合い、誰もがいきいきと暮らせる多文化共生のまちづくりを目指すために、その指針となる基本目標、その柱、具体的な施策の方向をまとめるための会議に参加しました。

⑤「三重県国際交流協会連絡会」

主 催 三重県国際交流財団

日 時 平成 23 年 2 月 10 日(木) PM1:30～4:30

場 所 三重県国際交流財団 会議室

内 容 県内の国際交流事業を行う団体が集まり、外国人住民施策についての地域の課題について、情報交換を行いました。

## 2 庶務事項

### (1) 理事会等

評議員会	第1回	平成 22年	5月 19日	(水)
	第2回	平成 22年	5月 24日	(月)
	第3回	平成 22年	11月 4日	(木)
	第4回	平成 23年	3月 9日	(水)
理事会	第1回	平成 22年	5月 25日	(火)
	第2回	平成 22年	12月 15日	(水)
	第3回	平成 23年	3月 9日	(火)

## Ⅱ 決算報告書

### 1. 貸借対照表

平成23年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
普通預金	7,193,654	6,833,018	360,636
流動資産合計	7,193,654	6,833,018	360,636
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	119,779,512	150,000,000	△ 30,220,488
定期預金	30,220,488	0	30,220,488
基本財産合計	150,000,000	150,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産 三重銀行 鈴鹿支店	849,600	566,400	283,200
減価償却引当資産 百五銀行 鈴鹿支店	2,173,498	1,643,178	530,320
事業推進積立資産 三重銀行 鈴鹿支店	3,884,789	2,533,789	1,351,000
特定資産合計	6,907,887	4,743,367	2,164,520
(3) その他の固定資産			
車両運搬具	45,062	315,437	△270,375
什器備品	2	97,197	△97,195
ソフトウェア	149,188	311,938	△ 162,750
その他の固定資産合計	194,252	724,572	△ 530,320
固定資産合計	157,102,139	155,467,939	1,634,200
資産の部合計	164,295,793	162,300,957	1,994,836
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,999,033	2,536,507	△ 537,474
預り金	166,327	118,803	47,524
流動負債合計	2,165,360	2,655,310	△ 489,950
2 固定負債			
退職給付引当金	849,600	566,400	283,200
固定負債合計	849,600	566,400	283,200
負債の部合計	3,014,960	3,221,710	△ 206,750
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	161,280,833 (150,000,000)	159,079,247 (150,000,000)	2,201,586 (0)
(うち特定資産への充当額)	(6,907,887)	(4,743,367)	(2,164,520)
正味財産合計	161,280,833	159,079,247	2,201,586
負債及び正味財産合計	164,295,793	162,300,957	1,994,836

## 2. 正味財産増減計算書

平成22年 4月 1日から 平成23年 3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
[1] 経常収益			
(1) 基本財産運用益	1,950,000	1,950,000	0
基本財産受取利息	1,950,000	1,950,000	0
(2) 受取会費	800,000	1,004,000	△ 204,000
賛助会員受取会費	800,000	1,004,000	△ 204,000
(3) 事業収益	2,266,500	1,529,850	736,650
自主事業収益	262,500	1,529,850	△ 1,267,350
参加負担金収益	2,004,000	0	2,004,000
(4) 受取補助金	21,000,000	22,348,000	△ 1,348,000
受取市補助金等	21,000,000	22,348,000	△ 1,348,000
(5) 受取寄付金	151,000	1,000	150,000
受取寄付金	151,000	1,000	150,000
(6) 事業受託収益	1,758,966	0	1,758,966
受託金収益	1,758,966	0	1,758,966
(7) 雑収益	34,643	51,783	△ 17,140
受取利息	10,063	14,633	△ 4,570
雑収益	24,580	37,150	△ 12,570
経常収益計	27,961,109	26,884,633	1,076,476
[2] 経常費用			
(1) 事業費	18,898,436	14,608,021	4,290,415
交流事業費	6,692,743	1,450,542	5,242,201
研修啓発事業費	2,437,707	5,053,232	△ 2,615,525
情報収集提供事業費	2,739,868	2,960,571	△ 220,703
国際交流活動推進事業費	455,000	595,000	△ 140,000
共生推進事業費	6,573,118	4,548,676	2,024,442
(2) 管理費	6,861,087	11,896,941	△ 5,035,854
役員報酬	100,000	100,000	0
給与費	4,929,031	4,554,229	374,802
給料手当	4,314,542	3,995,731	318,811
福利厚生費	614,489	558,498	55,991
事務費	1,832,056	7,242,712	△ 5,410,656
会議費	160,930	163,479	△ 2,549
旅費交通費	5,800	0	5,800
消耗品費	31,078	309,813	△ 278,735
印刷製本費	157,719	157,540	179
燃料費	19,301	14,129	5,172
修繕費	0	4,441,500	△ 4,441,500
通信運搬費	132,703	463,746	△ 331,043
光熱水費	49,610	0	49,610
使用料	353,500	442,929	△ 89,429
賃借料	170,410	0	170,410
消耗什器備品費	0	73,500	△ 73,500
負担金	103,800	108,800	△ 5,000

科目	当年度	前年度	増減
保険料	76,680	104,570	△ 27,890
租税公課	4,000	13,800	△ 9,800
委託料	0	320,000	△ 320,000
諸謝金	0	0	0
支払手数料	36,205	86,010	△ 49,805
退職給付	0	0	0
減価償却費	367,570	380,146	△ 12,576
ソフトウェア減価償却費	162,750	162,750	0
経常費用計	25,759,523	26,504,962	△ 745,439
当期経常増減額	2,201,586	379,671	1,821,915
2 経常外増減の部			
[1] 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
[2] 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,201,586	379,671	1,821,915
一般正味財産期首残高	159,079,247	158,699,576	379,671
一般正味財産期末残高	161,280,833	159,079,247	2,201,586
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	161,280,833	159,079,247	2,201,586

### 3. 財産目録

平成23年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
普通預金		
百五銀行 鈴鹿支店	3,950,692	
三重銀行 鈴鹿支店	3,242,762	
第三銀行 鈴鹿支店	100	
鈴鹿農業協同組合 本店	100	
流動資産合計		7,193,654
2 固定資産		
(1) 基本財産		
投資有価証券		
国庫債券資金（日本国）	119,779,512	
定期預金		
百五銀行 鈴鹿支店	10,220,488	
三重銀行 鈴鹿支店	10,000,000	
鈴鹿農業協同組合 本店	5,000,000	
第三銀行 鈴鹿支店	5,000,000	
基本財産合計	150,000,000	
(2) 特定資産		
退職給付引当資産 三重銀行 鈴鹿支店	849,600	
減価償却引当資産 百五銀行 鈴鹿支店	2,173,498	
事業推進積立資産 三重銀行 鈴鹿支店	3,884,789	
特定資産合計	6,907,887	
(3) その他の固定資産		
車両運搬具	45,062	
什器備品	2	
ソフトウェア	149,188	
その他の固定資産合計	194,252	
固定資産合計		157,102,139
資産の部合計		164,295,793
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,999,033	
預り金	166,327	
流動負債合計		2,165,360
2 固定負債		
退職給付引当金	849,600	
固定負債合計		849,600
負債の部合計		3,014,960
正味財産		161,280,833

#### 4. 財務諸表に対する注記

##### 1 重要な会計方針

###### (1) 固定資産の減価償却の方法

車両運搬具, 什器備品及びソフトウェア・・・定額法

###### (2) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・・・・・・・・期末退職給与の要支給額に相当する額を計上

###### (3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式による。

##### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
地方債	150,000,000		150,000,000	0
国債		119,779,512		119,779,512
定期預金		30,220,488		30,220,488
小 計	150,000,000	150,000,000	150,000,000	150,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	566,400	283,200	0	849,600
減価償却引当資産	1,643,178	530,320	0	2,173,498
事業推進積立資産	2,533,789	1,351,000	0	3,884,789
小 計	4,743,367	2,164,520	0	6,907,887
合 計	154,743,367	152,164,520	150,000,000	156,907,887

##### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味 財産からの充 当額)	(うち負債 に対応する 額)
基本財産				
国債	119,779,512	—	(119,779,512)	—
定期預金	30,220,488	—	(30,220,488)	—
小 計	150,000,000	—	(150,000,000)	
特定資産				
退職給付引当資産	849,600	—	—	(849,600)
減価償却引当資産	2,173,498	—	(2,173,498)	—
事業推進積立資産	3,884,789	—	(3,884,789)	—
小 計	6,907,887	—	(6,058,287)	(849,600)
合 計	156,907,887	—	(156,058,287)	(849,600)

##### 4 担保に供している資産

該当なし。

5 固定資産の取得価額, 減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額, 減価償却累計額及び当期末残高は, 次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当期末残高
車両備品 (公用車)	1,081,500	1,036,438	45,062
什器備品 (パソコン)	472,500	472,498	2
ソフトウェア	813,750	664,562	149,188
合 計	2,367,750	2,173,498	194,252

6 補助金等の内訳並びに交付者, 当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者, 当期の増減額及び残高は, 次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の 名 称	交 付 者	前期末 残 高	当期増加額	当期減少額	当期末 残 高	貸借対照表 上の記載区分
国際交流事業 市補助金	鈴 鹿 市	0	21,000,000	21,000,000	0	—
合 計	—	0	21,000,000	21,000,000	0	—

## 5. 収支計算書

平成22年 4月 1日から 平成23年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入	1,950,000	1,950,000	0	
基本財産利息収入	1,950,000	1,950,000	0	
(2) 会費収入	800,000	800,000	0	
賛助会費収入	800,000	800,000	0	
(3) 事業収入	2,265,000	2,266,500	△ 1,500	
自主事業収入	223,000	262,500	△ 39,500	
参加負担金収入	2,042,000	2,004,000	38,000	
(4) 補助金収入	21,000,000	21,000,000	0	
市補助金等収入	21,000,000	21,000,000	0	
(5) 寄付金収入	151,000	151,000	0	
寄付金収入	151,000	151,000	0	
(6) 事業受託収入	2,011,000	1,758,966	252,034	
受託金収入	2,011,000	1,758,966	252,034	
(7) 雑収入	26,000	34,643	△ 8,643	
受取利息収入	7,000	10,063	△ 3,063	
雑収入	19,000	24,580	△ 5,580	
事業活動収入計	28,203,000	27,961,109	241,891	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	19,486,000	18,615,236	870,764	
交流事業費支出	6,621,943	6,621,943	0	注1
研修啓発事業費支出	2,367,000	2,366,907	93	
情報収集提供事業費支出	2,795,057	2,669,068	125,989	注1
国際交流活動推進事業費支出	455,000	455,000	0	
共生推進事業費支出	7,247,000	6,502,318	744,682	
(2) 管理費支出	6,381,000	6,330,767	50,233	
役員報酬支出	100,000	100,000	0	
給与費支出	4,929,031	4,929,031	0	
給料手当支出	4,314,542	4,314,542	0	注1
福利厚生費支出	614,489	614,489	0	注1
事務費支出	1,351,969	1,301,736	50,233	
会議費支出	194,952	160,930	34,022	注1
旅費交通費支出	6,000	5,800	200	
消耗品費支出	31,078	31,078	0	注1
印刷製本費支出	157,719	157,719	0	注1
燃料費支出	34,202	19,301	14,901	注1
修繕費支出	0	0	0	
通信運搬費支出	132,703	132,703	0	注1
光熱水費支出	49,610	49,610	0	注1
使用料支出	353,500	353,500	0	注1
賃借料支出	171,000	170,410	590	
消耗什器備品費支出	0	0	0	
負担金支出	104,000	103,800	200	
保険料支出	77,000	76,680	320	

科 目	予算額	決算額	差異	備考
租税公課支出	4,000	4,000	0	
委託料支出	0	0	0	
諸謝金支出	0	0	0	
支払手数料支出	36,205	36,205	0	注1
退職給付支出	0	0	0	
事業活動支出計	25,867,000	24,946,003	920,997	
事業活動収支差額	2,336,000	3,015,106	△ 679,106	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
(1) 基本財産取崩収入	150,000,000	150,000,000	0	
投資活動収入計	150,000,000	150,000,000	0	
2 投資活動支出				
(1) 基本財産取得支出	150,000,000	150,000,000	0	
(2) 特定資産取得支出	2,166,000	2,164,520	1,480	
退職給付引当資産取得支出	284,000	283,200	800	
減価償却引当資産取得支出	531,000	530,320	680	
事業推進積立資産取得支出	1,351,000	1,351,000	0	
投資活動支出計	152,166,000	152,164,520	1,480	
投資活動収支差額	△ 2,166,000	△ 2,164,520	△ 1,480	
Ⅲ 予備費支出	100,000	0	100,000	
当期収支差額	70,000	850,586	△ 780,586	
前期繰越収支差額	4,177,000	4,177,708	△ 708	
次期繰越収支差額	4,247,000	5,028,294	△ 781,294	

## 6. 収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金、未収金、未払金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は下記2に記載するとおりである。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金	6,833,018	7,193,654
合計	6,833,018	7,193,654
未払金	2,536,507	1,977,153
預り金	118,803	166,327
合計	2,655,310	2,143,480
次期繰越収支差額	4,177,708	5,050,174

### 3. 科目間流用について

#### (1) 科目間の流用 (注1)

予算科目のうち 事業費-情報収集提供事業費支出より 34,943 円を交流事業費支出に、管理費-印刷製本費支出より 37,542 円を給料手当支出に、管理費-会議費支出より 20,048 円、印刷製本費支出より 26,739 円、燃料費支出より 702 円を福利厚生費支出に、管理費-消耗品費支出より 36,703 円を通信運搬費支出に、管理費-消耗品費支出より 8,219 円、燃料費支出より 11,391 円を水光熱費支出に、管理費-燃料費より 3,500 円を使用料支出に、管理費-燃料費より 205 円を支払手数料支出に流用した。

科目	当初予算額	科目間流用額	流用後予算額
事業費 交流事業費支出	6,587,000	34,943	6,621,943
事業費 情報収集提供事業費支出	2,830,000	△ 34,943	2,795,057
管理費 給料手当支出	4,277,000	37,542	4,314,542
管理費 福利厚生費支出	567,000	47,489	614,489
管理費 通信運搬費支出	96,000	36,703	132,703
管理費 光熱水費支出	30,000	19,610	49,610
管理費 使用料支出	350,000	3,500	353,500
管理費 支払手数料支出	36,000	205	36,205
管理費 会議費支出	215,000	△ 20,048	194,952
管理費 印刷製本費支出	222,000	△ 64,281	157,719
管理費 消耗品費支出	76,000	△ 44,922	31,078
管理費 燃料費支出	50,000	△ 15,798	34,202